

同窓会長挨拶



千厩高等学校同窓会

会長 千葉 鐵 男 (昭和 32 年卒)

(平成 27 年 8 月 3 日～平成 29 年 8 月 5 日)

昨年、活躍を期待され、新会長に選出された菊地さんが、全く思いもかけないことに、また、非常に残念なことに、1年足らずの間に急逝されるという非常事態に至りました。

これを受け、理事会やら、新旧役員懇談会やらを経て、今年8月の総会において、不肖私が会長に選出されてしまいました。本人としては、前会長の残任期間だけのつもりではありますが、何卒お力添え、ご協力を切にお願い申し上げる次第です。

さて、今さらですが、私たちが現在ある職業も社会的地位も、多くの部分が母校千厩高校で育まれたのだと考えられないでしょうか。否、そんなはずはない、高校はどこであれ、その後も含めて、本人の努力があったからだと反論される方もいらっしゃるでしょう。そのとおりです。そのとおりには違いないのですが、母校の名を目にし、耳にし、また、現在の千厩高校生の活躍、さらには同窓生の方々の多方面に亘る活躍を知る時、自分のことのようにも、それ以上にも大きな喜びや晴れがましきで、胸のときめきを感じることでしょう。それが同窓生なのです。

私自身、母校が距離的に身近であり、その感覚が鈍っているなあと、反省させられますが、もっと母校を想い、千高生の活躍を祈り、何らかの声援なり協力なりを、相応に意思表示していきたいものと考えます。

宇宙飛行士の油井さんが、先日地球を飛び立った直後に、「地球はものすごく綺麗です」と感動の言葉を発しました。母校を遠く離れた多くの同窓生の皆さんが、同様に千厩高校を感じているのではないのでしょうか。「ものすごく素晴らしい母校」と。

蛇足になると思いますが、同期会やクラス会などの楽しい集いに限らず、各支会等の活動を中心に、後輩を励ましたり、相談に乗ったり、協力し合うという、年代を超えた交流も活発に行われ、郷土と言わず、日本の未来にさらに明るい展望を開ければいいと願っています。

母校のさらなる発展と千厩高校生の活躍を祈ります。そして、同窓生各位のますますのご隆昌も願ってやみません。

最後に、前会長 故 菊地 保 (やすし) 先輩の、私たちに対するご加護と安らかなお眠りを衷心よりお願いし、また、お祈り申し上げ、就任のご挨拶といたします。(平成27年8月)